

令和6年度 第2回 学校運営協議会議事録

開催日時：令和6年12月12日 14:00-17:00

参加者：熊澤・岩崎・吉田・雅樂川・校長・教頭・教務

日野指導主事（海老名市教委）

欠席者：秋庭・吹越

（1）授業見学

（2）生徒より

○1年：稲作の報告 生徒I 生徒E

- ・1年生では金太郎チーム・米米クラブで総合的な学習の時間に稲作活動に取り組んでいる。
- ・地域の人（大塚さん）のご指導の下、田植えや稲刈りなど共に取り組んできた。
- ・大塚さんたちのおかげで、お米をたくさん収穫できた（21袋×30kg）
- ・市民祭りで販売した（474袋完売）
- ・今後は、1年生全員で、「地域貢献」を目標に取り組んでいく。
- ・具体として、保育園・学童・子ども食堂・フードドライブ等配付する

○生徒会：白石市訪問の報告 生徒Y 生徒I

- ・11月26日から一泊二日の予定で、6名の訪問団で白石市に訪問した。
- ・能舞台の名所訪問やこけしづくり等を、訪問団の仲間と体験した。楽しかった。
- ・市庁舎等を訪問し、市長等と名刺交換をするなど挨拶を交わした。
- ・3年生の参加は、自分だけだったので、頼られる部分も多く、自覚を持って参加できた。
- ・登別市・白石市の生徒と情報交換を行い、居住地や学校の特色について学んだ。
- ・人口や面積も異なっているし、その土地の文化も違うことが分かった。
- ・白石市、登別市の学校には、文化祭があることに驚いた。
- ・この経験を通して、さらにわが町、海老名が好きになった。

（3）全国学力学習状況調査の結果について

校長：結果だけを見ると、全国平均を上回り、いわゆる「学力」は高いといえる

質問紙からは、課題となる事項がいくつか見られる。

- ①夢や目標が明確に持つことができていないこと
- ②自己肯定感（有用感）が低いこと
- ③地域へ貢献していこうとする意識が低い

特に、③については、今年度、「応援される学校」を重点目標に掲げているが、地域とのかかわりが低いことから、目標達成には至っていない。

家庭で取り組んでいただきたい4項目について、現状を把握し、課題についてご指摘いただきたい。

I 地域や社会に目を向ける機会を持ちましょう

II 生活習慣を整えましょう

III 笑顔を大切にしましょう

IV未来を見据えましょう

岩崎：地域も子どもたちに、積極的にかかわろうとしていない。

吉田：家庭も学校も地域も地域とつながろうとする意識が弱い。

アプローチをどのようにしていくか。

子どもたちのサポートをどのようにしていくかが課題。

校長：キャリア教育を柱に地域とつながる取り組みを行っている。

1年生では、職業講話

2年生では、職場体験を行うなども行っている。

吉田：社会に出て学ぶ機会を増やさないと難しいし、家庭の協力が必要であるが、それが難しい。

岩崎：将来の目標については、講話を聴くだけでは興味が持てるものではない。

身近な大人とのかかわりが大切になるのではないだろうか。

校長：1年生の職業講話では、子どもたちに身近な職業の方たちに来てもらって、ワークショップ形式でより多くの人に触れあってもらおうと思っている。

吉田：体験後のフォローはどのように進めていくのが大事だと思うが、何かを感じた子どもたちは、自分の進路の考え方も変わるのか。

岩崎：子どもたちの進路の考え方も変わってきている。これまでの子どもたちは、しっかり目標をもって、進路に挑戦しようとする姿があった。最近の子どもたちは、無難なところで進路を決めている子が多い中には、将来を見据えて、進路のことを考えている生徒もいるが、ごくわずかである。

雅楽川：去年の卒業生も、しっかり夢をもって卒業していった子もいる。今も、その夢を持ち続けて、高校での生活を送っている。

吉田：子どもたちが目標をもつために、何をできるかを学校は考える必要がある。

校長：そんな子どもたちを育てるために、地域と協働的に取り組んでいきたいという思いもある。

熊沢：子どもたちが抱く夢は、今は漠然としているもので構わないと思う。社会情勢が刻々と変化する中で、子どもたちの選ぶ職の考え方も変化してきている。職場体験の方法も見直す必要があるのではないか。職場体験の在り方も形骸化してきていることを懸念している。職場体験を始めたころは、受け入れ側も、働く姿、大人としての姿を見せようとしていた。そのころは、少なくとも、地域と学校がしっかりつながっていたかと思っている。

校長：職場体験のあり方がマンネリ化してきているとは思わないが、子どもたちのニーズに合わせた経験を大切にしたいと思っている。そこで、今年の2年生は、これまでの職場開拓に合わせて、より専門分野で体験できるように、業者委託もして、様々な職場を開拓している。「自立・夢を拓く人」学校教育目標の根幹について、多様な視点から考えていくことが、必要であるということを理解しました。

ありがとうございました。

吉田：夢膨らむアプローチをお願いします。

校長：働き方も多様化していることを、子どもたちに伝えていきたいと思っています。

岩崎：夢をもてる子どもたちを育てたい。

熊沢：学校生活が充実している子どもたちは、成長とともに、夢が広がっていきます。学校にいてよかったということを、大事にしてほしいです。

そう考えると、感動的な体育祭は大きな効果があったと思っています。

(4) 次年度からの PTA 活動について

校長：次年度からの本校の単 P の在り方についても検討が進められている。任意団体であることから、単 P においても、加入・非加入の意思決定が必要。懸念事項としては、PTA の加入者が減ることで、PTA 会費の減収が見込まれる。加入者が減ることを想定して、常置委員会をなくす方向で検討をしている。その代わりに、本部（運営部・企画部）を拡大する。常置活動に代わり、保護者が参加しやすい、ボランティア活動の充実を図りたい。広報誌に代わる、SNS の活用も進めていきたいと考えている。学校運営の両輪として学校運営協議会と PTA 本部が協働できる仕組みを考えたい

雅楽川：どの学校も、PTA 改革が進んでいる。保護者の実態も踏まえ、学校に合った形で進めてほしい。

校長：スリムな形で、PTA 活動を充実させていきたい思いはあるが、減収になることが懸念。

雅楽川：役員をやらないで済むなら、みなさん PTA に加入することはそんなに懸念を示さない気がする。

校長：今後、学校教育活動・PTA 活動を進めていくにあたり、その充実を図るための予算や周年行事を行うための資金をどのようにしていくかについて意見をいただきたい。

校長：校内にファンドを準備してはどうかと思っている。

地域の皆さんと共に進めていく教育活動であったり、PTA だけでなく、地域の方と一緒に進めるボランティア活動であったりを充実させるために、みんなの活動資金を設けたい。自治会等から、1 世帯 10 円の寄付をもらうことなどはどうかと思っている。

雅楽川：ほかの学校はどうかのかな

校長：これまでできていた活動が、資金がないことでフェードアウトせざる負えない状況は避けたいし、卒業生の卒業記念品等もこれからも続けていきたいと思う。

吉田：PTA 会費は、今一世帯いくらか？

竹島：年間、2400 円になります

雅楽川：PTA 会費の執行は適正で、総会資料にて、使途が明確にされています。

竹島：来年、新しい PTA の機構で進めてみないとわからないが、今年度までは、非加入世帯はいないので、PTA 会費は、今後の課題になってくると思う。

吉田：自治連に相談してみるのもよいかと、青健連の会議には、自治会長も集まっている。相談してみるとよい。

熊澤：学校運営にあたり、学校運営協議会と PTA 本部が協働できる形は大賛成。その仕組みを検討して欲しい。

校長：それぞれの立場の多くの人の意見を聞きながら、学校運営を進めていきたい。

(5) 令和 7 年度 特色ある学校推進事業に係る予算要望

★一同 承認

(6) 各学年より

【3 年】

遠矢：子どもたちの指導が行き届かないところがあるので、地域の協力が得られるとありがたい。

吉田：自治会にも伝わっていけば、地域の見方が変わる。地域が目が大きくなることで、先生方の指導に専念できる環境を維持したい。

校長：地域に係るみなさんには、今日初めて相談をさせていただいた。

吉田：地域との情報交換の場で伝えてほしい。知らなかったことが伝わることで、地域が変わってくる。

遠矢：大谷中学区はよい地域なので、みんなで生徒を何とかしたい。そして、みなさんの力を借りながらいい学校、いい学区を何とかしていきたい。

熊沢：体育祭を見ていて思った。生徒の大きな力を感じた。特に、3年生の力は大きい。そんな子どもたちの力を信じて、指導を続けてほしい。

遠矢：学年全体の秩序が乱れているわけではない。

熊沢：体育祭の生徒のけん引力を見ていればわかる。

遠矢：保護者のかかわりが大きいことに感謝している。保護者は、学校に協力的である。

校長：一部の生徒に、当該学年の先生方は十分に必要な指導、適切な支援をしている。

地域に子どもたちが出たときには、どうしても目が届きにくい。

先ほども相談させていただいたが、校外に関して、力添えいただければありがたい。

【2 学年】

荒井：2年生には、来年を見据えた話をしてくれている。意識の高まりを感じる。

職場体験の事前指導を外部委託した。子どもたちが経験できる職種も広がった。

部活動が世代交代して、生き生きと活動に取り組んでいる半面、部内でのトラブルや人間関係の課題も見えてきた。しっかりサポートしていきたい。

小林：先ほども話をしたが、職場体験は地域との大切なつながりと思っている。できるかぎり、市内及び学区の中でも職場実習ができるようにしたい。

竹島：現状では、学校と地域がうまくつながれていない気がする。

日野：中学校にも、地域コーディネーターや学校応援団が必要と感じるが、学校応援団を作るとなると、新規事業の取り扱いになり、予算措置等の運用が難しい。

吉田：職場体験については、自治会が市内に60か所ある。そのとりまとめを行っている自治会連絡協議会に相談すると協力が得られるのではないかな。自治会連絡協議会で、例えば職場体験の話にしても、自治会長が共有できるので、協働的な体制が取れるのではないかな、私も以前、自治連の副会長だったことがあるから、何となくイメージができる。一度、自治連の会長に連絡してみるとよい。

【1 年生】

黒岩：やっと大谷中学校の一員になれた気がする。稲作活動によって、新たな経験ができた。そして、地域とのつながりの中で教育活動ができたこと感謝している。1年生では、防寒着着用のルールを徹底している。社会のルールにつなげていきたい。部活動でも、1年生に出番ができて、モチベーションを高めて参加している。

熊沢：1年生の先生方を見ての印象として、みなさんお若いなと思う。その分、授業も一生懸命な印象。でも、子どもたちとの距離感や話し方などは気になるのでよろしくお願いします。

校長：産休に入っている教諭がいて、体育科の指導は、福永・蛭子の二人体制で行っている。部活動についても、別の教諭が担当している。

吉田：授業参観の場面で、あいさつがしっかりできていたのが、1年生。感心した。

黒岩：「ご機嫌曜日」を設けて、あいさつ運動実施中

(7) その他・市教委より

日野：学校運営協議会が、充実しているように感じた。学校運営協議会に、地域の代表の方や保護者代表の方をという話は賛成である。これからの学校づくり、地域の力がとても重要になる。そして、学校は地域に開いていくことが求められているので、みんなで地域に根差した学校づくりを進めてほしい。

校長：次回の日程は、2月の下旬もしくは3月上旬ころを予定している。

日程の詳細が決まったら、連絡する。

卒業式の参加もお願いしたい。3月12日挙行予定。